

ハイランドレポート

(高原通信)

# Highland report !?

D.A.R.C 那須ケアセンター・ニュースレター

第 9(2003. 12. 11)

## 私達の漂流の果てに

那須ケアセンターを支援する家族会会長

私達夫婦がダルクの家族会に繋がったのは、今から 4 年前の 12 月のことです。宇都宮保健所の「薬物フォーラム」へ妻が偶然参加した事から始まります。この頃、本人は拘置所の中で判定をまつばかり・・・。

刑務所行きは確定的の状態の中での事でした。我々の心の中は真暗闇で出口の見えない、トンネルの中でオロオロしているだけでした。今思うとハイパーパワーが私達家族に微笑んでくれたのです。薬物依存症者本人からのメッセージ栗坪施設長の話でした。家族からのメッセージ、妻の涙が出て止まらなかったそうです暗闇のどん底で目の前に一条の光を感じたと、話してくれました。一生治る事のないが回復はできる「漂流の果てに」を求めて家に帰り一気に読みあげ「ここしかない、これしかない。」出所したらダルクに入寮させると言うのです。私も「漂流の果てに」を読み終わりましたがまだ迷いがありました。



定年も近いし、家も建て替えたいし、夢もありますし・・・。妻は言いました「私と離婚して」二人で残したお金の半分を下さい、そのお金で息子の入寮費を払い回復させたい、私は妻の決心の堅いのに驚き考え抜いた末、本人

をダルクに入寮させる決心ができました。茨城ダルクに電話したのは年の瀬が迫った暮れのことです。「ダルクには盆も暮れもないから今すぐ出かけて下さい」との由、結城駅でスタッフの人と待ち合わせて、ダルクに案内してもらいました。その時施設長代理の栗坪さんが「ピンチをチャンスに変えましょう」と言われた言葉は大変うれしかったです。この時、栗坪さんと運命的なものを感じました。その時から私たち夫婦はダルクの家族会に参加しはじめ



現在に至っています。病気の重い私には「タフラブ」つきはなしはとても苦しかったです。行動の面では刑期中面会是一次だけでしたが、心の中では寒さ暑さがつらくて自分達も冷暖房のない生活と思うのですが、体がついていけず使っ

てしまい涙しました。家族会メッセージとして発し、仲間からのアドバイスを頂き、心がだんだんと安らいでいくのを実感しました。本人は出所と同時にダルクに繋がり1年10ヶ月がたちます。岩井さんがよく言いました「刑務所生活を経験すると心がすさむんだよな。それを仲間が癒してくれるんだ」今本人は仲間達と共に暮らしています。私たち夫婦は本人をダルクに入寮させてから感謝の連続です。免許書の書き換え、保護司への連絡と面倒なことばかり数日で片付けてくれました。

薬物依存になってからだれ一人昔の仲間がいなくなった。本人に対して新しい生き方を選んだ、仲間が出来た事にも感謝です。この感謝の気持ちを何か行動にあらわしたいと那須ケアセンター設立と同時に「家族会」立ち上げに参加しました。私の様な無力な者が役割を頂き「那須ケアセンターを支援する家族会」が設立しました。(平成15年6月29日のこと)とてもうれしかったです。私たち家族は漂流の果てに、本人はダルクへ私たちは家族会へ両方の回復を願ってペンをおきます。ダルクの仲間達、家族会の仲間達ありがとうございます。感謝です。

## クリーンな1年

依存症 Q00

去年の今頃私は、脅迫的に覚せい剤を使用したくてどうしようもありませんでした。横浜ダルクに入寮中にも関わらず、一緒に使用していた妻に離婚届にサインすることを条件に、覚せい剤を買いに施設を飛び出しました。

覚せい剤と自宅に帰るお金しか無いにもかかわらず購入して自宅に帰りました、そしてこれが私の最終使用になったのです。

おかしな話しですが、使用する前に「どうか神様、この覚せい剤で死なせてください！！」「もし死ねなかったらどうか仲間と共に歩む人生をお与え下さい！！」と祈っていたのです。



いつもにも増して大量使用したにもかかわらず、神様は私に死を与えては下さりませんでした。

翌日、目を覚ますと家にはもう妻の姿は無く、途方に暮れた私は施設に電話をして戻ることを選びました。

地元では回復が難しいと判断していただき、翌日には長野ダルクに移り新しい仲間との生活が始まりました。

長野に移ってから私は何かと言うとミーティングで「覚せい剤を使用して死にたい！！」とよく話していました、ありとあらゆることを全てミーティングで吐いて少しずつ楽になって行きましたが、「死にたい病」だけは消える事が無く仲間を不愉快にさせていました。

ある日、ちょっとしたことから口喧嘩になり仲間にも暴行を受ける事になりました。「死にたいなら殺してやる！！」と何度も言いながら仲間は拳を振り上げ私に殴りかかりました。私は何故か「あなたに感謝しています！！」と叫び続けました。その時は分かりませんでした。今となると日常生活で色々と注意してくれたのは彼でしたし、この件で私は「死にたい病」が治ってしまいました。

外傷の為、総合病院に1ヶ月程入院している間に色々考えましたが、プロ

グラムを最後まで続けるために行き先を長野ダルクの施設長にお任せして那須ダルクに辿り着きました。

新しい仲間と新しい施設でのプログラムが始まりました。



大自然の中で都会の喧騒を忘れて、日々ゆっくりとした時間の流れの中で、山林・パソコン・スポーツ・ステップミーティング等のプログラムを行い、与えられた役割やミーティングをしてゆくなかでクリーンな1年を迎えることができ、本当に仲間とハイヤーパワーに感謝しています。

これからも自分の回復を第一に施設生活を続けてゆき、少しずつ仲間の手助けができるような自分になってゆければと思っています。

## 支援会員募集のお知らせ

昨今、社会問題の一つとして若年層者の薬物使用の増加が叫ばれています。薬を止められなくなってしまった人達の回復の場として、那須ケアセンターは薬物乱用防止の一役割を担っていると自負しております。しかし、いまだ補助制度の利用が出来ない状態なので、皆さんのご協力が必要です。ぜひ支援会員となって薬物依存者の回復にご協力下さい。

年会費一口五千元より ※別紙払込表でお申し込みお願いします。

## 週間プログラム

日	土	金	木	水	火	月	曜日 時間
起床 7:20 ・ 朝食 7:30							
● セルフケア	● ミーティング	● ミーティング	● ミーティング	● ミーティング	● ミーティング	● ● ミーティング スタッフ ミーティング	午前(九時～十時半)
	作業班・調理班の仕事・昼食 等						
	● セルフケア	● オキユベイショナル プログラム (山林作業・パソコン)	● ● ステップミーティング コンゲーム	● ● スポーツプログラム (那須のスイミングドーム)	● ● ハウス ミーティング 洗車		午後(一時半～三時)
夕 食							
● 須賀川カトリック教会 (第一・三日曜日)	● 施設ミーティング	● 大田原カトリック教会	● 施設ミーティング	● 那須教会	● 施設ミーティング	● ● 松が峰カトリック教会 (宇都宮) 郡山細沼教会	NAミーティング
就 寝 23:30							



## 献金・献品をいただいた方

向井勝實様 小林 博様 工藤和昭様 バルトロメオ・マクマホン様

井澤和子様 塩川信子様 鈴木洋子様 小野寺美也子様

田口 清様 佐藤忠雄様 小林 栄様 水井清次様

那須ケアセンターを支援する家族会様

匿名 5 名様

## お礼

毎月、那須ケアセンターに運営資金ならびに献品をいただき心より感謝しています。本当にありがとうございました。

## 年末献金のお願い

今年もいよいよ年末が近づいてまいりました。那須ケアセンターは年越しをはじめて迎えます。この 10 ヶ月間なんとかやってこれたのも支援者の皆様のおかげと、とても感謝しております。

しかし慢性的な資金不足は年末に来て、引越しも重なり、ますます逼迫しています。心苦しいばかりではありますが、支援会員募集と並び献金を宜しくお願いします。